

「労働力不足について」【地域協委員提案・意見集約】

区分	提 案 (意 見) 内 容
人材派遣等	●登録制による人材派遣 ・人材派遣の窓口を設け、お手伝いして頂ける方を登録する。(短期間の希望者、または、(本業が)お休みの日のみ) ・日程、仕事内容に合う方を必要に応じて派遣する。(希望の内容も事前に聞いておく。)
	●よろず屋の結成 ・65才以上の男性、女性を中心に何でも屋さんを結成。電話一本で出勤頂く。
	●以前は、高校があり、繁忙期には、高校生が働きに来てくれましたが、高校がなくなってからは、人材の確保が難しい状況です。 ●今いる従業員で何とかこなしているのが、現実です。 ●今後は、さらに高齢化が進み人材の確保が難しくなることを考えると、外国人を労働者として活用することや、それぞれの業種の繁忙期に人材(外国人に限らない)を派遣する機関などがあればと考えています。
	●大学生のスポーツクラブの合宿とアルバイトを兼ねる。(早朝バイト・日中合宿など)
	●市役所職員の援農・援漁休暇の創設(ボランティア休暇みたいなもの)
	●個人の力でどうこうできるレベルではないので、労働力を欲している個人団体が横の繋がりを持って問題に取り組むべき。 ●例えば、NPO法人のようなものを立上げ、人つなぎを円滑に行なう下地をつくれないだろうか。 ●浜益の場合、夏期に集中するので、どんな仕事があり、どんな人材が必要でどの位の賃金が払えるか、きちんと整理した上で、人の呼込み方を考えていった方が良いと思う。 ●元気なリタイヤ組に田舎暮らしを楽しみつつ、年金の足しになる収入をとアピールすれば、人は、来ると思う。太美や札幌から来ている方は、皆浜益生活を楽しんでいる。そういう人達に意見や問題点を聞いてみるのも現実面を知るのに良いと思う。
ニーズ調査	●浜益区で求められている求人数・職種調査を行う ・農・漁・商・福祉施設・医療等 データの集約どこに何人のニーズがあるか、労働期間、労働対価、労働時間や条件はどうか。 ・求める人材の条件(年齢・体力・経験・資格など)
	●事前にいつ、どんな人、期間など基本的ニーズを押えておくことが必要。
	●労働力を必要とする経営体の調査(農・漁・商) ・まずは、求人数・労働期間・賃金・労働時間・雇用条件などの実態調査を行って現状を把握する。 ・労働力不足の現状を把握した上で対応策等について協議を行う。
	●調査結果の共有 ・関係組織へ内容の確認 ・各団体組織で出資できる額の計算
情報の発信・提供	●求人情報の発信方法の工夫 ・インターネット、サイトなどの活用 ・スマホ発信・受信の時代広報・文字媒体の工夫 ・人的広報の工夫、浜益倶楽部との連携等
	●市のホームページでバイト募集をする。
	●定年退職Uターン促進については、関東浜益クラブや札幌浜益などでピーアールする。
補助金等	●就労支援・過疎対策・移住関連事業などの補助金は存在していないか？
	●水産高校・酪農大学・進学者へ奨学金を出す。
先進事例	●過疎地での先行事例はないか。
	●成功例(東北など)がないか。ピンチも新たなビジネスチャンスとなる可能性がありはしないか？

区分	提 案 (意 見) 内 容
住宅・通勤問題等	●住居・通勤問題の解決にむけて ・まず何が出来るか、バス送迎か宿舍手配か、住宅整備か、家賃運賃はどこまで求めるか ・短期雇用者(夏休み・連休中、学生など)、季節的雇用者、通年雇用希望者、受入可能人数 ①短期雇用者向け住宅の整備 ・物件確保・整備計画 ・宿舍的な建築物は建てられないか ・農業、漁業経営者の宿泊設備人員の確認 ②通年雇用向けにはやはり、住宅確保・家賃補助(手当等) ③バス運行計画 ・漁業、農業(水稻・野菜・果樹園)、コンビニ、飲食店 労働者向け - デマンド交通活用は？ - 花川方面からのアルバイトを運ぶ ※いずれにしても、なにがしかの補助金が存在していないか - 経営者の出資がどの程度あれば実現するかを試算が肝心になると考えます。
	●でめんバスの運行(札幌・石狩などからの送迎バス)
	●繁忙期だけの人材を求めても無理があると思います。 ●浜益の住民は、ほとんど何かしら仕事をしていますし、かと言って前回話に上がっていた区外から人を呼込むと言っても移動手段、賃金、仕事の向き不向き…即戦力がほしい所もあるでしょうし…誰でもと言う訳には行かないような気がします。 ●浜益に移住してもらうのが、一番なのかも知れませんが、通年通して安定して働けるところがあり、住む家があることが、一番の条件になると思います。 ●繁忙期だけの仕事でも移住してくれる方がいるのであれば、住宅確保が一番の問題ですね。市営住宅など建てて時期的に貸出し、移住につなげていくか…！ 難題すぎて、良い案が浮かびません。
その他	●藤女子とのコラボ ・浜益の食材を育てるところから係わって、その食材を利用した健康的なメニュー作り。

(提出:委員7名)